



NPO 法人 京都観光文化を考える会

都草だより

第89号
 発行人：小松香織
 編集人：相場まり子
 発行所：京都市上京区
 下立売通新町西入
 京都府庁旧本館2階
 電話：075-451-8146

■ 第18回都草講演会



6月22日(日)に歴彩館大ホールで第18回都草講演会を開催しました。「稻荷信仰の成り立ち 一渡来人の祀った稻荷神社」というテーマで、京都産業大学名誉教授の井上満郎先生にご講演いただきました。当日は313名の方々のご参加がありましたが、これは今までの都草講演会の中で最多人数です。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

伏見稻荷大社は渡来人の秦氏が祀った神社ですが、渡来人の信仰をそのまま植え付けたのではなく、地元の人たちの信仰の上に重層して成立した神社です。この背景について、『日本書紀』等の「六国史」や歴史教科書にもある「稻荷山古墳出土鉄剣銘」の資料等を基に分かりやすく説明していただきました。この時代は、日本海沿岸に勢力をもつ豪族に天皇を立てるだけの大きな力があつたことや、日本人が国家を形成する過程で渡来人が大きな原動力になっていることが理解できました。

第1部の講演の後に、講演に対する質疑応答を行いました。質問がある参加者が壇上に上がり、井上先生に直接質問してその場でご回答いただきました。講演を聴くだけでなく、講師の方とのやり取りがあると講演内容の理解がさらに深まります。今回のこの企画を今後の講演会でも継続していただきたいと思います。

井上先生、素晴らしい講演をしていただきありがとうございました。質問者の質問に嬉しそうに笑顔でコメントされる先生のお姿にも、温かいお人柄を感じることができました。(理事 伊藤 一彦)



■ 笑顔あふれる「ぶらり京都のまちあるき」(受託事業)



都草では京都高齢者大学校「ぶらり京都のまちあるき」のガイドを受託しています。毎月4回、年間8か月開催され、毎年テーマやコースに工夫を加えて同じコースは歩かないことをモットーに企画しています。今年からは、シニアに優しい「ゆったりコース」も新設され、好評を博しています。受講生は京都ばかりではなく、大阪や兵庫などからの参加もあり、友だちづくりのよき場所となっていると思います。今年度も前半3か月が終了しました。

前半3か月のコースは①天台五門跡の1つ曼殊院から音羽川散策 ②足利義満の相国寺を巡る ③豊臣秀吉ゆかりの醍醐寺三宝院を訪問、でした。受講生のみなさんの反応は、「京都に住んでいてこんな場所があつたとはびっくり」「歩くのはしんどいが完歩した時の爽快感は何とも言えない」「ガイドさんは、すごく物知り博士だね」。

先日も、終了時に受講生の方が担当ガイドに、「大変良かった。レジメには書いていない事ばかりで感激しました」とお褒めの言葉をいただいてガイドも大変喜んでいました。ちょっとほっこりした場面でした。

「ぶらり京都のまちあるき」の担当者としては、雨に降られず、けが人もなく、無事に時間通り終わることが何よりです。受講生の笑顔とまち歩きが終わった後の・・・で疲れも吹っ飛び、生き返りますね。

(会員 三田 保則)

■ 大船鉾のボランティア「祇園祭特別てぬぐい浴衣」で参加



2014年に大船鉾が復興する前から会所でボランティアを続けている私にとって、梅雨明けの暑い時期に京都に滞在しご奉仕するのは、年中行事の一つでございます。着物好きな私がいつの間にか集まった様々な山鉾のてぬぐいを使って浴衣を作りたいと考えるのは、実に自然な流れでございました。昨年までは涼しげに見える浴衣を選んで着ておりましたが、いよいよ今年は「祇園祭特別てぬぐい浴衣」でのご奉仕ができませんでした。一番目立つ上前には当然大金幣の大船鉾、左袖には今年の前祭山一番の占出山。

会所でも和装に興味のある方々の目をひき、おおいに話が盛り上がりしました。案内業務のほかにもお客様との記念撮影に応じ、良い思い出になったのではと存じます。またこの浴衣で宵山を散策し、プライベートでも楽しい時間を過ごしました。

各山鉾のてぬぐい、それぞれ柄はもちろん大きさや生地の手触りが異なり、浴衣を作るのはとても大変なこと。特に「柄合わせ」という作業に苦心したと、縫ってくれた友人が言っておりました。実は友人は和裁士。仕事人としての確かな眼力で見事にこの難しい柄合わせをクリアし、てぬぐいを18本使い傑作を縫い上げてくれました。

ボランティアの皆さんに「来年は龍頭だから、新調するの？」と尋ねられました。はてさて、いかがいたしましょう。どうぞご期待くださいませ。また来年7月、四条町の会所でお目にかかりましょう！（会員 石塚 みず絵）

（7月1日京都新聞読者投稿欄「まど」に掲載されました）



■ 発見と気づきの歴史探訪会



2年前、大船鉾支援ボランティアに参加させていただいたことで都草に入会のご縁をいただきました。その1年後、京都の歴史や文化に一段と興味を持ち始めた頃、また新たなご縁をいただき、歴史探訪会の南部会に参加させていただくことになりました。

歴史探訪会での活動は、私にとってももちろんほぼ初めてのことばかりです。活動は先輩メンバーの方々を中心に、計画スタートから当日まで時間をかけて丁寧で綿密に準備をします。

そのような中で、皆様のお話を伺い、感動することも多く、自分自身も調べていく事の楽しさが、以前より増してきていることに気付かされます。このことは、歴史探訪会に参加させていただいたことによる意識の向上だと嬉しく思っております。

また、準備の際の打ち合わせで毎回感じるのは、メンバーの皆様の知識と情報量の多さです。打合せ時に資料も持ち寄ったり文章を確認したりもします。その一つ一つが、私にとっては難しいことでもあります。質問すると丁寧に教えてくださいます。メンバーの皆様の説明力、知識力、行動力に感動しながら活動に参加させていただいております。歴史探訪会に参加するご縁をいただいたことに感謝しております。活動はとても勉強にもなりますし、「わぁ！すごい！そうだったんだ！」「来てよかった！」「また来たい！」「もっと調べてみよう！」等々、本当に感動と学びと感謝の連続です。そして、改めて歴史探訪会に参加というご縁に、感謝しております。

今後も多くの皆様と歴史探訪会を共有させていただけたら嬉しく思います。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。（会員 日野 英子）